

## 令和5年度「企業局経営計画委員会」議事概要

- 1 日 時 令和5年10月18日（水）10時00分～12時00分
- 2 場 所 企業局1号会議室
- 3 出席者  
（委員） 新祖委員（座長）、品川委員、田中委員、弘中委員、渡辺委員  
（企業局） 弘田公営企業管理者ほか20名
- 4 議 題  
（1）令和4年度第4次経営計画の進捗状況の評価報告について  
（2）経営計画の見直しについて
- 5 議事経緯  
企業局第4次経営計画の進捗状況に対する評価、経営計画の見直しについて説明及び質疑を行った。  
その際出された主な意見の概要は、次のとおり。

---

### （1）令和4年度第4次経営計画の進捗状況の評価報告

---

#### ◆経常収支比率について

- （委員） 電気事業について、修繕費が計画より減少している原因は何か。計画したことができていないという訳ではないということでしょうか。
- （企業局） 機器の状況等を踏まえ、修繕の実施を後ろ倒しにしたことなどにより、計画に比べ修繕費が減少した。計画したことができていない訳ではない。
- （委員） 工業用水道事業について、計画値に比べ、収益が増加した理由は何か。
- （企業局） 計画策定時に、撤退予定であった受水企業の契約水量の減量を見込んで収益を想定していたが、撤退時期が予定よりも遅くなったため、収益が計画値より増えた。
- （委員） 工業用水道事業について、令和4年度に料金の変更はあったのか。また、それが給水収益の増加に影響していないか。
- （企業局） 一部で変更があり、料金が上がった事業もある。それが給水収益の増加に大きく影響はしていない。
- （委員） 電気事業、工業用水道事業の令和4年度までの収支において、最近の物価上昇や人件費の高騰による大きな影響はあるか。
- （企業局） 電気代（動力費）と工事費に影響が出ている。電気代は令和4年度後半から影響しており、令和5年度も影響があると考えている。工事費は急激ではないが、徐々に上がってきている。

#### ◆小水力発電所開発箇所数について

(委員) 小水力発電所の開発は、大きなコストが掛かると思うが、今後の事業の推進についてどのように考えているのか。

(企業局) 再生可能エネルギーである水力発電の容量を向上していく考えはあるが、小水力発電事業の実施については、まずは採算性の確保を前提に考えたい。

---

## (2) 経営計画の見直し概要の報告

---

#### ◆電気事業「再生可能エネルギーの地産地消の推進」について

(委員) 重点課題として再生可能エネルギーの地産地消を挙げているので、中国電力㈱との契約が終了する令和6年度以降も、現状の「やまぐち維新でんき」に変わる新たな仕組みを作って欲しい。

#### ◆電気事業「電力システム改革への対応について」について

(委員) これまで二部料金制であったものが、入札制度への移行により、売電単価は上がったものの、市場価格の変動リスクは増えたという認識で良いか。

(企業局) お見込みのとおり。中国電力㈱の契約では基本料金と従量料金が8対2であったが、今後は完全従量となり、実際の発電量によって収益が大きく変わる契約となった。

#### ◆工業用水道事業「収支計画」について

(委員) 収入水準は10年間横ばいであるが、経費は増額を見込んでいる。これは動力費の増加などを見込んでいるのか。

(企業局) 動力費は、令和5年4月の中国電力の単価で置いている。修繕費、改良費について、今回合わせて見直しを行う施設整備計画において、計画期間10年の前半期間に比べ、後半期間の方が事業量が大きくなり、経費が増える見込みになる。

(委員) 総事業費について当初379億円が414億円となっているが、事業内容自体は当初計画と変わっていないのか。

(企業局) 事業内容は前半に計画していた事業が、後半にずれ込んだものや、元々後半に計画していたものを、事業費の平準化を図るため、計画期間外にしたものがある。

#### ◆「施設整備計画」について

(委員) 50年ぐらい経過する動力関係やコンピューターシステム関係の施設や設備を修理、修繕する場合、メーカーが換わりの部品を保管しているのか。

(企業局) 機器更新は施設整備計画で周期毎に行うが、メーカーによって取替部品、保守部品の保存期間が若干違っているため、情報収集をして、周期毎の更新、修繕ができないようであれば、更新計画を早めるなどの対応をとっている。

#### ◆電気事業「効率的な維持管理方法の検討」について

- (委員) 令和11年度からの10年間の大規模な改修について、今の物価上昇を踏まえると、現在の減価償却費累計額と次の10年の更新費との差額が最大のネックになると考える。内部留保資金の確保の見通しについて、考慮しているか。
- (企業局) 発電所施設の老朽化は令和10年度以降も継続し、昭和30年に建設した2発電所をリニューアルした後に、昭和40年に建設した発電所のリニューアルをする更新計画になっているなど、全体的に減価償却費は高いままの傾向になる。
- (委員) 将来見通しは難しいと思うが、インフレ時の最大のテーマが資産の更新のための内部留保資金が足りるかどうかになる。インフレがどこまで続くかは全くわからないが、可能な限り早期に内部留保資金の具体的な状況がわかれば、より見通しが明確になると思う。
- (企業局) 計画後半5年間にどうすれば施設を効率的に維持管理できるのか、延命できるのか、また状況によっては廃止も含め検討し、経営計画委員の皆様の意見も聴きながら進めていきたい。
- (委員) 現状の設備で如何に需要を増やしていくかも一つある。成長性を見込んだものを作っていないといけない。